

平成30年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	岡谷美術考古館 開館5周年記念事業
事業主体 (連絡先)	岡谷市 岡谷市幸町8番1号
事業区分	(3) 教育、文化の振興に関する事業
事業タイプ	ソフト
総事業費	571,438 円 (うち支援金: 412,000円)

事業内容

岡谷美術考古館が移転し、リニューアルオープンから5年となるため、開館5周年記念事業として特別企画展や関連イベントの開催や若手作家を支援する事業を行った。

○考古特別企画展

第一部「華麗な装飾 火焰と水煙の縄文土器展」

第二部「恵みを生み出す器 縄文中期の顔面把手大集合」

関連イベント「土器をつくって、焼いて、展示しよう」

及び展示解説

○若手アーティスト育成展示 (挑戦そして飛躍)

「片桐晃憲/そして輪郭を現す」

関連イベント「アーティストトーク」



【アーティストトーク】

【目標・ねらい】

- ① 美術考古館5周年PR
- ② 考古展示による情報交換及び縄文文化の理解
- ③ 若手作家の支援・育成及び周知

事業効果

※地域活性化のための目標・ねらいに対してどのような効果があったか、項目毎に記載すること。

- ① 展示を通して、多くの来館者に開館5周年のPRができ、気軽に立ち寄れる館として認識していただいた。学校と連携し、多くの子ども達の実験があった。
- ② 県外等の博物館と連携がとれ、展示により地域による資料の違いなど、縄文文化のより深い把握に繋がった。また、イベント開催により当時の状況に触れることができた。
- ③ 館職員が面識のない方の応募もあり、若手発掘にもなった。メディアの取材もあり、作者及び作品を広く紹介することができ、若手作家への後押しができた。

※自己評価【A】

【理由】考古は東博で行われた「縄文展」の影響があり、多くの来館者があった他、郷土の考古資料に興味をもっていただく機会の提供となった。また、若手展示もLCVや市のチャンネルに取材され、注目度は高く反響は大きかった。それぞれ、想定外の相乗効果があった。

今後の取り組み

※今後、事業効果をどうつなげていくか記載すること。

今後においても、流行やニーズを敏感に捉え、創意工夫を凝らし、魅力ある展示を企画していくとともに、他施設との情報交換や市民等と協働し、体感できる事業を行っていき、共感や理解をより深めていきたい。また、教育委員会の所管として、作家や作品・資料の紹介だけにとどまらず、支援・教育・普及にも力を入れ、多くの方に美術や資料を通じて、心の豊かさ等に寄与して行きたい。

※ 自己評価欄は、地域活性化に及ぼす事業効果について、以下から選択のこと。

「A」: 予定を上回る効果が得られた 「B」: 予定していた効果が得られた

「C」: 一定の事業効果はあったが事業実施方法や今後の活用等について、工夫や改善を要する点がある